

2022（令和4）年度 神戸親和女子大学附属親和幼稚園学校評価について

神戸親和女子大学附属親和幼稚園は、認定こども園に移行し、3年目を迎えています。幼児教育の充実を目指した取り組みに加え、長時間保育、午睡、シフト勤務などを工夫し、幼児が安心安定して生活できる環境づくり、保育の質向上に向けて取り組んでいます。経験年数の浅い教員集団ですので、取り組むべき課題も山積しています。大学との綿密な連携の下にお互いに連絡をとりながら専門的な視点から意見を聞き「学校評価報告」を作成し、神戸親和女子大学附属親和幼稚園運営委員会において承認されましたので公表いたします。

学校評価表の項目といたしまして、昨年に引き続き「認定こども園としての在り方を創造する」「安全・保健教育の充実」「子育て支援の充実」を掲げています。

さらに「重点目標」とその内容の「取組の状況・成果・課題」を記述しました。それら进行评估し、「改善策」と「幼稚園運営委員会」でいただいたご意見を表記しています。

まず『教育共通時間の充実』としては、直接体験、考える体験ができる保育の工夫、環境構成を大切にしてきました。また、継続的な保育、異年齢保育、季節に即した保育にも取り組み、遊びの発展や友達とのかかわりにおいて、育ちや学びにつながっていききました。

『長時間保育の工夫』では課題を教職員で共有し、解決に向けて取り組んできていますが、まだまだ試行錯誤の段階です。今後も自分のこととして課題解決していけるよう取り組んでいきたいと考えています。

『園内研修の充実』については親和3園で保育交流に基づく合同研修会を持ち、資質向上につながる時間が持つことが出来ました。今後も引き続き積み重ねていけるよう幼児・教員がともに成長できる研修になるよう工夫していきたいと考えています。また、園内研修の在り方を見直し、自ら研修内容を検討し、計画実施を行うという新たな方法で研修に取り組み、自ら動き出せる教師集団を目指しています。まだ、スタートしたところなので今後も積み重ね質向上につなげていきたいと考えています。

「安全・保健教育の充実」「子育て支援の充実」につきましては安全・安心できる環境につながるよう、当たり前の見直しを行い、より安全な環境作りを引き続き工夫しながら取り組んでいきたいと考えています。

一人ひとりの命が輝くように子どもたちを大切に育て、保護者・地域・大学関係者等と共に連携しながら精進してまいりますので、今後とも神戸親和女子大学附属親和幼稚園に皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023年3月31日

認定こども園

神戸親和女子大学附属親和幼稚園

園長 阪上素子

今年度の目標（R4）

『自ら考え、行動できる子どもの育成』 『遊び込める環境の工夫』

『自ら動き出せる教師集団をめざして』

| 項目 | 重点目標 | 取り組み状況・成果・課題 | 評価 | 改善策 | 幼稚園運営委員会でいただいた意見等 |
|--------------------|-----------|--|----|---|--|
| 認定こども園としての在り方を創造する | 教育共通時間の充実 | <p>多様な経験が出来る環境構成、遊びの発展につながる環境構成・発達段階に即した環境の工夫に取り組む</p> <p>発達段階に即した環境構成についてはまだまだ工夫が必要である。また季節を取り入れたり、継続的な遊びが保障できる環境作りにも取り組む必要性を感じている。</p> | A | <p>遊び込める環境構成の工夫を目標に各クラス取り組んできた。保育室ではいろいろな遊びが出来る年齢に添った玩具の準備、発達の時期に添った遊びの提供などを考えてきた。遊びが深まるようパーテーションを作ったり、廊下なども遊び場として活用したりなど遊び場所の工夫などをしてきたが、今日の遊びを明日に繋げたり、発展させたりすることにはまだ課題が残っている。</p> <p>園庭ではルールのある遊びや縄跳びや竹馬など少し難しいことに挑戦したりする遊びが展開され、他の学年にも刺激となる環境が展開され刺激を受け合う場となっている。</p> <p>年長・年中では意図的な異年齢保育に取り組み、相手を思う気持ちや自覚、あこがれの気持ちなどを育てる環境作りをしている。同年齢では見られない姿や自分の良さに気づいたり、頑張れる場面が増えたり、素直に気持ちを表現したりする姿が見られた。今回異年齢保育について実践を発表する機会があったことで、異年齢</p> | <p>環境を通しての教育をしっかりと基盤に据えて、遊び込める環境構成に尽力し、工夫されたことが伝わりました。特に、「すでにあるもの」としての園内環境を超えて、「何かが始まりそう、起こりそう」との思いを持ち、保育者が環境構成している様子が目に浮かびました。</p> <p>遊びの振り返り、明日への繋がりについて、子どもと話し合いの時を持つことや、壁は第三の教育者として捉えて、遊びのプロセスの可視化としてのドキュメンテーションを表し、子どもも評価者、遊び（環境）の構成者として捉え、実践する、ということも一つの工夫であるかと考えられます。</p> <p>異年齢児保育の取り組みはここ数年の親和幼稚園の特色でもありますね。その醍醐味を味わえたことを嬉しく思います。互恵関係の大切さをさらに年少児との関わりも含めて、保育のダイナミックさを味わい、年齢での発達区分から、一人ひとりの育ちの過程を捉える方向に発達の概念が広がることになることでしょう。</p> <p>園見学に伺った際には、遊びが多様に広がり、園児の興味・関心に応じて活動が展開できる環境の工夫がなされていると感じた。周りの友達に親しく話しかけたり、来園者に人懐っこく話しかけたりする園児の姿が印象的であった。他者と関わり、相互作</p> |

| | | | | |
|----------|---|---|--|---|
| | | | <p>保育について展開方法、成果、課題などに向き合うことが出来た。日々の保育を丁寧に見直したことでより保育の創造、質向上につながっていることを実感できた。今後も全職員が関わりながら保育について語る時間を確保し、幼児の育ちから保育について考える機会を多く持てるように時間の確保に努力していきたい。</p> | <p>用行動である会話を成り立たせるという経験が育まれていると考えられる。</p> <p>大人である教員、保育者が子どもの遊びこみや語りかけにどのように反応し、その「世界」を他者として広げる支援を展開できるかについて研鑽を積んでいくことが、今後も一層求められると考える。</p> |
| 長時間保育の工夫 | <p>クラス活動と午後保育とのつながりや引継ぎ、健康管理などが課題となっていた。</p> <p>保護者への連絡方法</p> | B | <p>午後保育の時間になると疲労もあり、トラブル・怪我につながる事が多く、保育内容の工夫が必要である。季節を取り入れた活動、園庭での活動時間を確保したりなど工夫が見られるようになってきている。学年別の時間を作ったり、継続的な遊びを展開したりし、幼児の遊びたい内容を取り入れたり、保育者側からの提案の遊びを展開したりなどの遊びを楽しんでいる。メンバーが流動的であったり、降園の時間がばらばらであったりなど、保育の難しさがあるので、よりよい保育が展開できるよう研修を積んでいきたいと考えている。安心・安定できる環境づくりを心がけ、担当保育者数をできるだけ増やすなどの工夫もしている。</p> <p>保護者への連絡については午後保育の様子だけでなく、クラス活動の様子もあわせてお伝えしていくようにしている。トラブルについてはお迎えの時間等によっては直接かかわって</p> | <p>担当保育者の確保等、予算的な問題もあり、長時間となる午後保育の内容充実・安全管理は今後も課題を具体的に上げて、少しずつ解決する努力をするとともに、行政からの支援を粘り強く要求していくような動きも必要になると考える。</p> <p>一方で、保護者との連絡や保育者間の連絡・情報共有については、情報通信技術の一層の活用を図り、合理化していく努力も必要であると考えている。</p> <p>時間の持ち方、捉え方は、親和幼稚園に限らず世界の保育の中でも課題でありましょう。改善策に記しておられるように、活発な時間、休息の時間といったように、メリハリを持たせることも今後の課題でありましょう。また、時計の時間から、子どもの時間へと、生活としての時間と保育内容の展開を考えてみるということも一案かもしれません。</p> <p>保護者との関係性について、配慮をしていることが読み取れます。保護者も保育の参加者として、保育体験することにより、子どもの一日、保育者の働きを具体的に思いめぐらすことに繋がるかもしれません。ノンコンタクトタイムのあり方についてもぜひ、話し合いの時を持てますように、楽しみにしております。</p> |

| | | | | | |
|-----|-----------|--|---|---|---|
| | | | | いない保育者が伝えることになることもあるので連絡方法や情報共有など今以上に工夫が必要である。 | |
| | 園内研修の充実 | 研究保育や3園交流研修・研修会参加を積極的に行い、資質向上を図っていく。 学年研修・全体研修などを実施 | A | <p>昨年度の反省から、保育内容、特別支援、人権研修、安全教育などの研修の機会が持てるように研修分野ごとに分かれ、計画実施することにした。自分たちで研修会を展開したり、講師招聘をしたり、実技研修をしたりなどいろいろな方法で研修会を持つことが出来た。園内の研修会の回数はまだ限られているので、次年度に向けては回数等も含めて計画をしていきたい。</p> <p>3園合同の交流研修会は保育の見方を見つめ直す、子どもの育ちの捉え方等学びにつながっている。また、他園の先生との意見交換できる場になり刺激を受ける機会となっている。</p> <p>学年会やリーダー研修の持ち方を今後工夫し保育者の学びにつながる内容で展開できるようにしていきたい。</p> <p>三田市内の幼稚園の公開保育研修会に参加できる機会が増え、他園の保育に触れ、刺激を受けることが出来た。なかなか全員が参加することはできていないが、今後も引き続き研修会への参加の機会を増やしていきたいと考えている。</p> | <p>園内の研修は、園独自の内容を深める場として重要であると同時に、3園交流研修や三田市の研修会への積極参加のように他の園と保育における課題や問題を共有し、課題解決の手がかりを協働的な議論や意見交換の中から見つけるという研修の取組を同時に進めていることが大切であり、今後も続けてほしい。</p> <p>また、大学教員も、また保育現場を別の角度や専門的視点から見ている他者としてうまく活用していただきたいと願っている。昨年度よりさらに、具体的に問題意識を持たれて、研修に取り組みされたことが伝わります。ぜひ、今年度に終わらず、持続可能な研修、実践へと繋げていかれますことを願っております。そうしたことから、親和幼稚園のアイデンティティが明確化され、さらに子どもとの日々の生活に反映することでしょう。</p> <p>小学校、大学との交流も持てることにより、親和幼稚園の社会貢献が明確化することになると楽しみにしております。</p> |
| 安全・ | 園内環境の衛生管理 | 保育室、遊具等の消毒の徹底積極的に清掃に努める。 | A | 状況に合わせて、コロナ対策を引き続き、園としてできることを実施してきた。オゾン消毒、 | コロナ禍にあり、日常の保育実践を行いながらの衛生管理には大変気を遣われたと思われる。いろいろな取り組みにより、感染者増加 |

| | | | | |
|---------|--|---|--|--|
| | | <p>手洗い、手指消毒の徹底と指導</p> | <p>次亜塩素酸による消毒、手洗い、手指消毒、マスク着用など継続してきたことなどの成果なのか、感染者の増加につながらず、欠席者も少数で収まっている。しかし、保育をしている限り密を避けることは難しいので、よりよい方法については今後も探っていきたい。</p> <p>感染者が増加してきている時期には幼稚園での検温も実施してきた。</p> <p>安全衛生の観点から、職員の意識を高めるための研修会や情報共有ができる機会を計画していきたい。</p> <p>園内の清掃には課題が残るところもあるので今後改善していきたい。</p> | <p>が抑えられている点、高く評価できる。</p> <p>今後、コロナをはじめとする未知なる感染症との戦いは、保育現場では続いていくと想定されるため、今年度、感染者を押さえられた実績を基にして、来年度以降も、子どもの健康観察や衛生管理等の徹底をはかって頂きたい。また、職員内での子どもの安全、保健関係の研修は、地域内の専門家(保健師、小児科医等)と連携・協力しながら進めるなどの工夫が必要である。</p> |
| 生活習慣の確立 | | <p>健康な生活ができるために生活習慣を身に付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身辺整理を進んでする ・身近な野菜を栽培し親しむことで食べ物に興味を持ったり、大切にしたりすることにつながる。 ・安全教育を実施し、緊急事態にも安全を意識した行動がとれるようにしていく。 | <p>B</p> <p>身辺整理では年齢に即して、自分でできることを増やしていくことを目指して取り組んでいる。年齢が低いほど出来るようになった嬉しさが自信につながっているように感じられた。</p> <p>今後も保護者と連携を取りながら、共に成長を喜び合える関係を築いていきたい。</p> <p>クラスごとに野菜の栽培に取り組み実の様子など身近に見ることが出来た。しかしみんなで食べたり、分けたりするほど収穫できなかったのも、保育への取り入れ方を工夫していく必要がある。</p> <p>偏食や食事量の少ない幼児たちも各クラス目標や目当てを分かりやすくすることで、少し</p> | <p>身辺整理については、家庭環境や発達などによる個人差があると思うが「〇〇ができる」ということよりも「〇〇が出来たと喜べる」部分を大切にされている点、高く評価できる。引き続き丁寧に関わっていただきたい。</p> <p>「子どもの主体性を大切にする・子どもの声を聞く」という保育の考えの中で、偏食や食事量については「自分で食べる量を決める」ということも重視されてきている。今後、単に「偏食がなく食べられる・一定量食べられることが望ましい」という保育者の価値観を見直す必要があると思われる。</p> <p>非常時を想定した避難訓練については、様々なパターンの訓練を行うことで、実際の緊急時に対応できるようになると思われ、評価できる。</p> <p>生活習慣の自立については、家庭環境や発達の差異が見られると</p> |

| | | | | | |
|----------|--------------------|--|---|--|---|
| | | | | <p>ずつ食べる量が増えてきている。</p> <p>避難訓練は毎月火災・地震・不審者と内容を変えながら、打ち合わせの上、計画した時間で実施してきた。消防署の方に来ていただき消火訓練、通報訓練等も実施することが出来た。非常時の対応についてはパターンを変えながら職員が臨機応変に対応できるよう今後も積み重ねていきたい。</p> | <p>思うので、常に家庭と連携・協力を得ながら、個々のペースに合わせて、ゆっくりと取り組んでいって欲しい。</p> <p>子どもの身近に栽培環境を整備することは、「食育」の観点からも大事なことであり、収穫の喜びを皆で味わう体験は、次年度以降は是非取り入れて頂きたい。</p> <p>避難訓練をはじめとする子ども達に対する危機管理対策については、様々な場面を想定しながら、取り組まれており、高く評価したい。</p> |
| 子育て支援の充実 | 配慮を必要とする子どもへの援助 | キンダーカウンセラーや巡回相談を積極的に受け入れ、配慮を要する園児が生活しやすい環境となるよう考えていく。 | A | <p>各クラス気になる幼児について、観察の後具体的な援助の方法を指導してもらい、その子どもたちが生活しやすい環境づくりを心がけてきた。しかし、学年、全体へと情報共有して、幼児について語り合う場を持ちたいと計画していたが、今年度は十分できていない。また、園全体として同じ対応ができるようしていくことが今後の課題である。</p> | <p>関係機関との連携及び協働は、保護支援・子育て支援においても非常に重要な役割を果たす事項となっています。また、園全体で語り合うことで、具体的な支援の在り方も見えてきます。今後も積極的に連携を図り、社会全体で子どもの育ちを支えるという視点を大切にしてください。</p> |
| | 教育内容、子育て情報などの発信の工夫 | HP や『おうちえん』、手紙などで、幼稚園の生活を紹介したり、子育てに役立つ情報を発信したりしていく方法を工夫していく。 | B | <p>日々の保育については『おうちえん』を取り入れ写真や動画で子どもたちの日頃の様子を伝えている。内容や配信方法については今後工夫が必要と思われる。子育てに役立つ情報の発信はまだまだできていないので引き続きの課題としていきたい。</p> | <p>現代は誰もが気軽に育児情報を入手できるようになっていますが、その反面、様々な問題も起こっています。それゆえ、必要な情報が必要な人に届くよう、十分に配慮しながら情報の発信を行って下さい。また、この情報発信が単なる連絡ツールとしてではなく、保育の質を深めるものとして活用できるよう今後の工夫に期待しています。</p> <p>保育施設は、子育て支援（子どもの教育、保育）の機能と子育て支援（保護者支援）の機能を併せもっています。子育て支援の機</p> |

| | | | | |
|----------|----------------------------|---|---|--|
| | | | | <p>能をより充実させていくことによって、子育て支援も豊かに展開できます。極論すれば、子育て支援=子育て支援といえると思います。このような視点から、どのような子育て支援活動を行っていくべきかを考えたいと思います。子育てに役立つ情報の発信がまだできていないとのことですが、毎月情報発信できれば良いと考えます。何か保護者の育児に役立つ方法などの発信も大切ですが、親和幼稚園の子どもの生活や保育の姿を写真などに収めてそれを提供すればよいのです。何か育児に役立つことを提供するよりも、子どもが楽しく伸び伸びと生活している様子を保育者の援助行為とともに発信すればよいのではないかと思います。親も安心して、ワクワクするような気持ちで保育の様子を体感できるような感じになるといいですね。</p> |
| 子育て相談の実施 | 臨床心理士や職員による相談会を計画的に実施していく。 | A | <p>子育て相談、発達相談については3年目ということもあり、定着してきている。保護者が気になったことを気軽に相談できる機会や雰囲気作りをしていきたい。プレ保育利用者や地域の方にも活用してもらえる工夫をしていきたい。</p> | <p>子育て相談、発達相談の実施について、3年をかけて定着してきているということは評価できることです。今後は、地域の子育て拠点として、さらに積極的に取り組んで頂きたいです。</p> <p>また、気軽に親が幼稚園にやってきて、子どもの姿を見ながら、園長先生や副園長先生やほかの保護者達と交わり、いろんなお話ができるようなおしゃべりルームを設けるなどしていけばいかがでしょうか。</p> |